

# 情報教育の観点から見たメディア・リテラシーの必要性和その教育内容

斎藤俊則 大岩 元

## 1. はじめに

インターネットが普及し、その利用形態が多様化した現在、メディア・リテラシー育成の重要性はますます高まっている。

かつてメディア・リテラシーに関する議論は「マスメディア対視聴者」の図式を前提に行われてきた。そこでは主に、マスメディアの挙動に対して視聴者が批判的な視座を持つことや、発信される情報に対して能動的に解釈することの重要性が主張されてきた。それらの主張の背景には、マスメディアが巨大産業として不特定多数に対する情報発信をほぼ一手に引き受け視聴者がそれを一方的に受容する状況に対する危機感や、自らの活動の公共性や公平性を主張しながらも「やらせ」や「情報操作」などの不祥事を繰り返すことへの不信感がある<sup>1)</sup>。

インターネットの普及は上述の「マスメディア対視聴者」の図式を前提とするメディア・リテラシーの議論を一変させる出来事である。従来マスメディアからの情報の“受け手”であった多くの人が、匿名性を保ちつつ不特定多数に向けて情報発信を行う手段を手に入れた。さらに、多様な用途やサービスが開発されることにより、インターネットは仕事から趣味・娯楽に至るまで日常の様々な活動に介在するようになった。メディア・リテラシーについての議論は、マスメディアの影響力を踏まえつつも、インターネットによって生じた情報発信者の多様化や、日常生活の情報への依存度の高まりといった新しい事態に目を向けて行われなければならない。

筆者らは情報教育の一環としてメディア・リテラシーの育成に取り組むべきであることを主張する。上述の通り、インターネットを情報メディアとして積極的に活用するためには、かつてマスメディアが情報発信の主流を占めていた時代には強く意識されることのなかった高度なリテラシーが必要である。特に“情報を読む力”としてのメディア・リテラシー、すなわち質の面において玉石混交の状態にある多くの情報に対してその価値や信頼性を評価し選別する能力の獲得が重要である<sup>2)</sup>。仮にインターネットへの接続やソフトウェアの操作が可能であったとしても、このような能力を欠いてしまつては、インターネットにおける情報活用は実質的に成立しないといつていい。従つて、その育成は情報教育における1つの主題として扱われるべきである。

本論文は過去4年にわたる筆者らの、情報教育におけるメディア・リテラシーの実現に向けた研究と教育実践の延長線上にある。1999年に「メディア・リテラシーの獲得」が今後の情報教育の1つの目標となりうることを初めて主張し、その教育内容の原型を示した<sup>3)</sup>。2001年に発表した研究報告では、情報教育は狭義の情報科学における情報のみならず、日常や社会のコンテキストの中で流通する情報をも視野に入れる必要があることを主張した<sup>4)</sup>。この研究報告に示された内容は、その後の筆者らの研究および教育実践の哲学的前提として現在に至るまで引き継がれている。さらに同年には、そのような情報を主題とする情報教育としてメディア・リテラシーを明確に位置付け、その具体的な授業案を発表した<sup>5)</sup>。2002年には情報教育の一環としてメディア・リテラシーを学ぶための総合的なテキストブックを出版し<sup>6)</sup>、さらに記号学をメディア・リテラシーの教育内容の拠り所として明確に位置づけた<sup>7)</sup>。2003年には大学での教育実践をもとに、情報リテラシー教育の中にメディア・リテラシーの観点からの教育内容を取り入れることが可能であることを示した<sup>8)</sup>。本論文はこれらの研究内容を総括するとともに、研究と並行して行われてきた教育実践の過程で得られた知見を示すものである。

以降、本論文では次のような順序で議論を進める。まず、独立した教育実践として多岐にわたる内容を持つメディア・リテラシーをいかに情報教育の中に位置づけるべきかを議論する（2節）。つぎに、そのような教育実践の具体例として、筆者らが大学生に対して行った授業のカリキュラムや演習課題を示したうえで（3節）、特にこのような内容の教育を試みる際に教員が踏まえるべき事柄を、過去4年にわたつて継続してきた教育実践に対する筆者らの解釈を踏まえ、教育現場から得られた知見として示す（4節）。さらに、得られた結果を教育研究の立場から検討する（5節）。

### 参 考 文 献

- 1) 渡辺武達：テレビ「やらせ」と「情報操作」，三省堂, p.230 (2001).
- 2) 宮田加久子：コンピューター・コミュニケーション 個人が情報を生産・発信することの意味を再考する，マス・コミュニケーション研究, 第五十二号, pp.33-48 (1998).
- 3) 斎藤俊則，大岩元：情報教育とメディア・リテラシー，情報教育シンポジウム論文集, IPSJ Symposium Series Vol.99, No.10, pp.9-16 (1999).
- 4) 斎藤俊則，大岩元：日常と社会から見た情報 「情報学」構築に向けた一試案，情報処理学会研究報告, 2001-CE-60-1, pp.1-7 (2001).
- 5) 斎藤俊則，大岩元：メディア・リテラシーとしてのメディア概論，情報教育シンポジウム論文集, IPSJ Symposium Series Vol.2001, No.9, pp.295-302 (2001).
- 6) 斎藤俊則：情報がひらく新しい世界9 メディア・リテラシー，共立出版 (2002).
- 7) 斎藤俊則，大岩元：メディア・リテラシー教育の論拠としての記号学，日本教育工学会第18回大会講演論文集, K-4-D-3, pp.93-96 (2002).
- 8) 斎藤俊則，大岩元：情報教育におけるメディア・リテラシーの可能性，情報教育シンポジウム論文集, IPSJ Symposium Series Vol.2003, No.12, pp.83-90 (2003).